

定点把握疾患の届出状況(令和7年7月~12月)

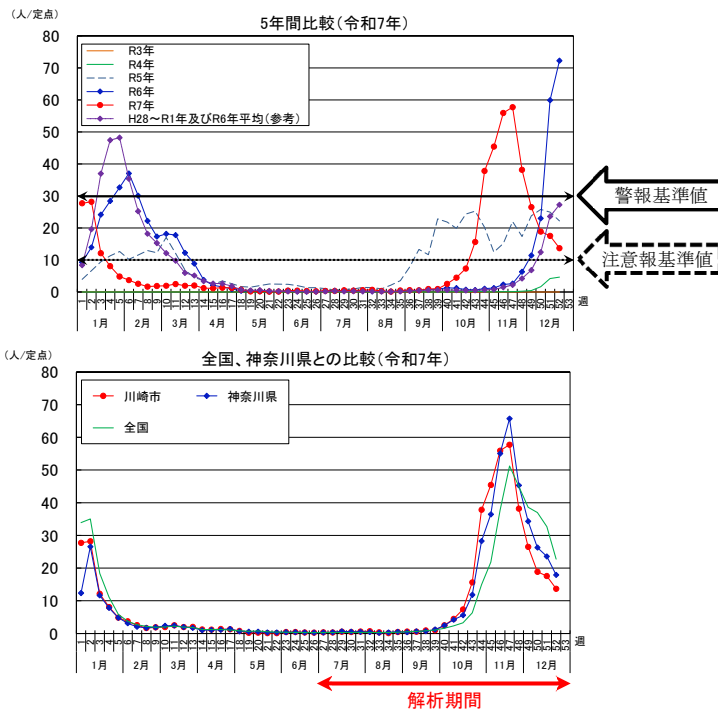
<急性呼吸器感染症定点対象疾患>

※令和2年~令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成28年から令和元年及び令和6年の平均を過去5年平均とし、比較を行った。

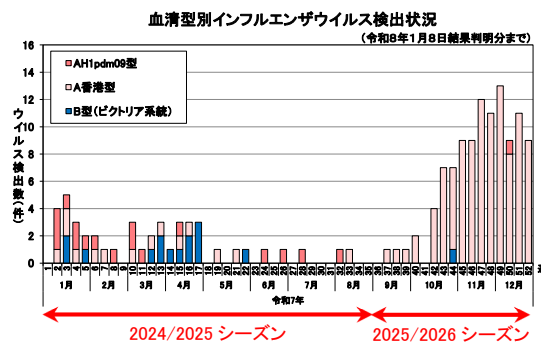
インフルエンザ(警報基準値:定点当たり30人、注意報基準値:定点当たり10人)

【川崎市】

今期(令和7年7月~12月)は定点当たり13.60人の報告があり、過去5年平均の4.07倍で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。2024/2025シーズンは、令和7年第18週(4月28日~5月4日)に定点当たり1.00人を下回り、非流行期となりました。2025/2026シーズンは、第40週(9月29日~10月5日)に定点当たり患者報告数が2.52人となり流行期となった後、第43週(10月20日~10月26日)に定点当たり15.63人となり、流行発生注意報基準値を超えました。その後第44週(10月27日~11月2日)に定点当たり患者報告数が37.83人となり、流行発生警報基準値を超え、第47週(11月17日~11月23日)に定点当たり57.73人と、流行のピークとなった後、報告数は減少しました。



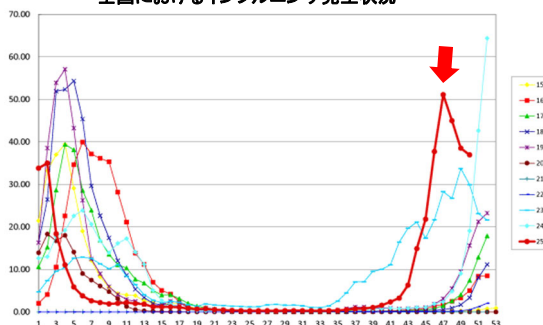
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。2024/2025シーズンは、7月以降にAH1pdm09型が2件、A香港型が1件検出されました。2025/2026シーズンは、A香港型が104件、AH1pdm09型が1件、B型(ビクトリア系統)が1件検出されました。



【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり高いレベルで推移しました。

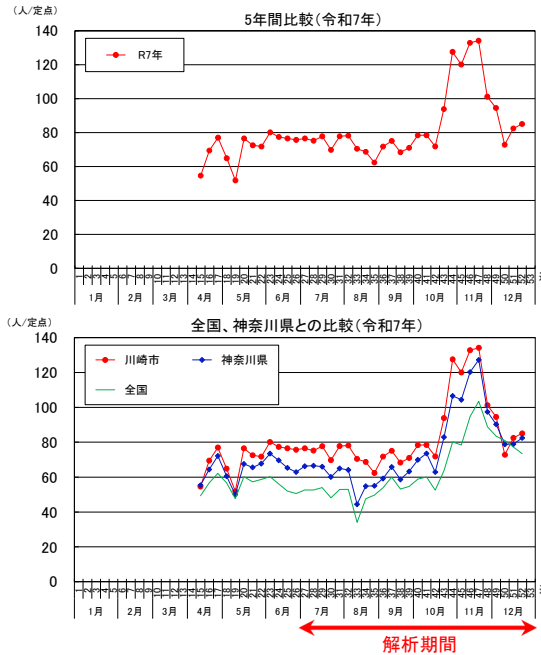
全国におけるインフルエンザ発生状況



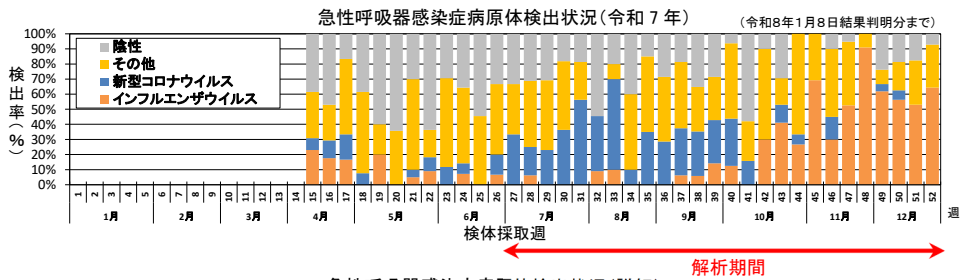
急性呼吸器感染症

【川崎市】

今期は定点当たり 85.48 人の報告がありました。サーベイランス開始以降、概ね横ばいで推移していましたが、インフルエンザの流行発生注意報が発令された第 43 週（10 月 20 日～10 月 26 日）以降報告数が急増し、第 47 週（11 月 17 日～11 月 23 日）に定点当たり 134.17 人となりました。その後報告数は減少し、12 月下旬以降は定点当たり 80.00 人前後で推移しています。



なお、病原体定点から 381 件の検体が搬入され、病原体検出状況は次のとおりです。



急性呼吸器感染症病原体検出状況(詳細)

病原体	検出数(件)	検出率
インフルエンザウイルス	109	28.61%
新型コロナウイルス	82	21.52%
ライノウイルス	57	14.96%
ヒトパラインフルエンザウイルス	34	8.92%
RS ウイルス	26	6.82%
アデノウイルス	20	5.25%
エンテロウイルス	9	2.36%
百日咳菌	8	2.10%
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	3	0.79%
ヒメタニューモウイルス	1	0.26%

(複数検出検体あり)

【全国及びその他】

全国的にも第 43 週以降報告数が増加しました。

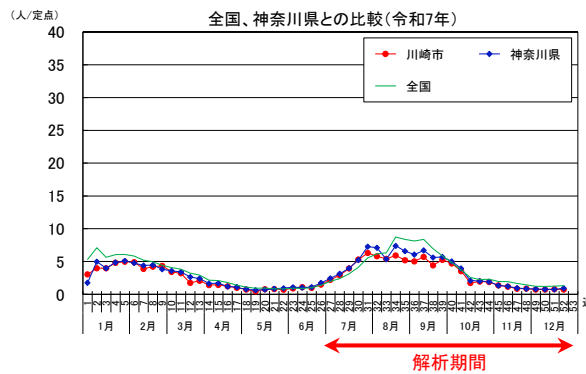
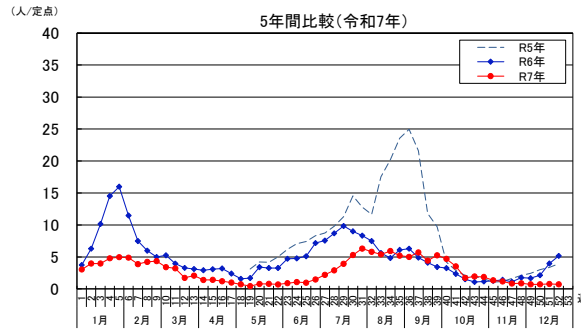
全国における急性呼吸器感染症発生状況



新型コロナウイルス感染症

【川崎市】

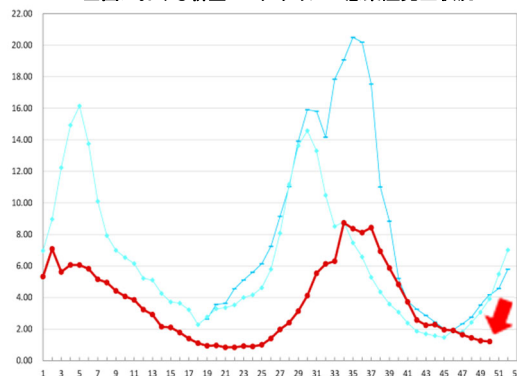
今期は定点当たり 3.21 人の報告があり、前年の 0.73 倍でした。6 月下旬以降患者報告数が増加し、第 31 週（7 月 28 日～8 月 3 日）に流行のピーク（定点当たり 6.31 人）となりました。その後 9 月下旬まで横ばいで推移し、10 月上旬以降報告数は減少しました。



【全国及びその他】

全国的にも夏季に増加がみられました。

全国における新型コロナウイルス感染症発生状況



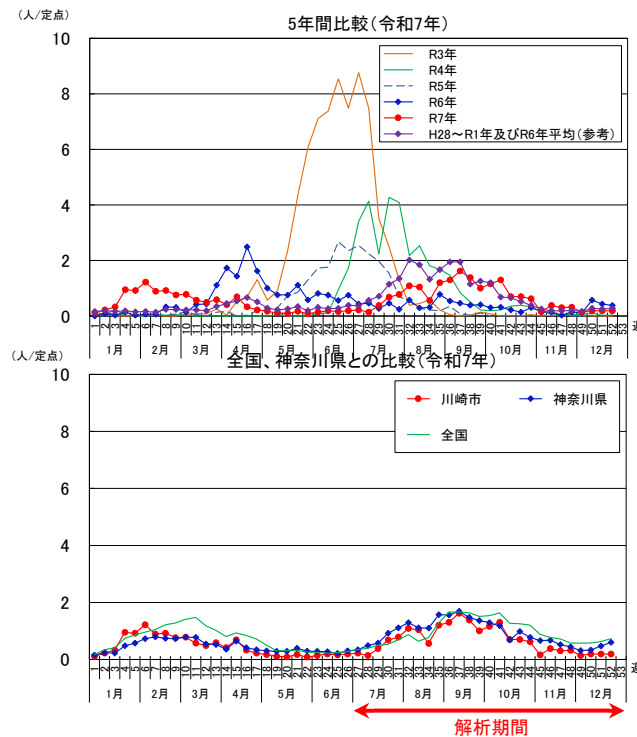
<小児科定点対象疾患>

※令和2年～令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成28年から令和元年及び令和6年の平均を過去5年平均とし、比較を行った。

RSウイルス感染症

【川崎市】

今期は定点当たり 0.68 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.80 倍で、例年並みのレベルで推移しました。

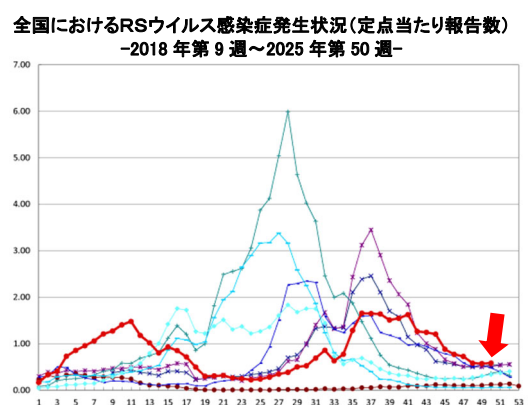
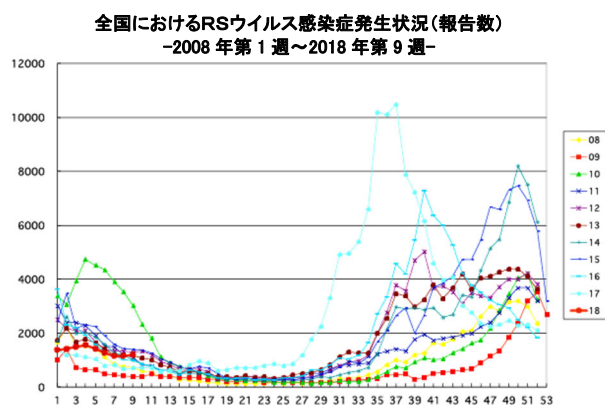


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
中原区	女	1	R7.7.1	鼻咽頭拭い液	RS ウイルス B 型
中原区	男	0(9 か月)	R7.7.15	鼻咽頭拭い液	RS ウイルス B 型
多摩区	女	1	R7.8.5	鼻咽頭拭い液	RS ウイルス B 型
幸区	女	1	R7.8.25	鼻腔拭い液	RS ウイルス A 型
高津区	女	1	R7.9.1	鼻咽頭拭い液	RS ウイルス A 型
中原区	男	1	R7.9.3	鼻咽頭拭い液	RS ウイルス A 型
中原区	女	1	R7.9.8	鼻咽頭拭い液	RS ウイルス B 型
幸区	男	0(11 か月)	R7.9.10	鼻腔拭い液	RS ウイルス A 型
中原区	男	1	R7.9.16	咽頭拭い液	RS ウイルス B 型
多摩区	男	1	R7.9.30	鼻腔拭い液	RS ウイルス A 型、B 型
中原区	男	1	R7.10.14	鼻咽頭拭い液	RS ウイルス B 型
幸区	男	0(5 か月)	R7.10.20	鼻腔拭い液	RS ウイルス B 型
中原区	女	1	R7.10.20	鼻咽頭拭い液	RS ウイルス B 型
高津区	女	1	R7.10.28	鼻咽頭拭い液	RS ウイルス B 型

【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

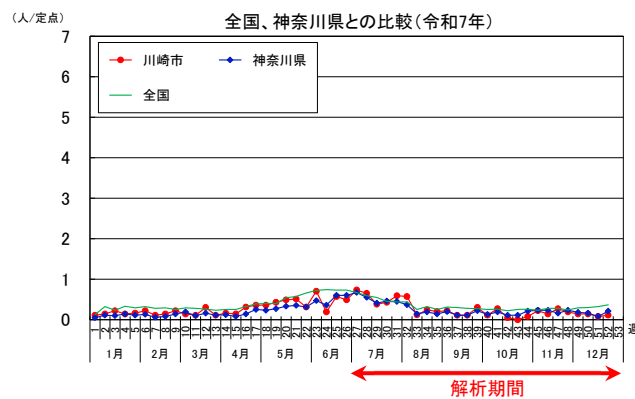
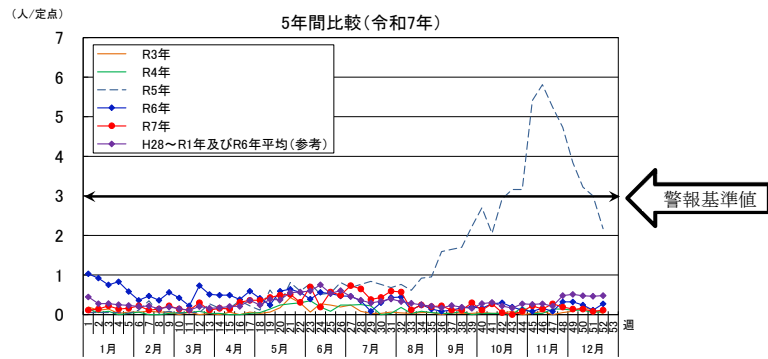


※2018年 第9週(2月26日～3月4日)から、国立感染症研究所におけるRSウイルス感染症の集計方法が変更となりました。(報告数→定点当たり報告数)

咽頭結膜熱(警報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.25 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.81 倍で、例年並みのレベルで推移しました。
 今期、流行発生警報基準値 (3) を超えた週はありませんでした。

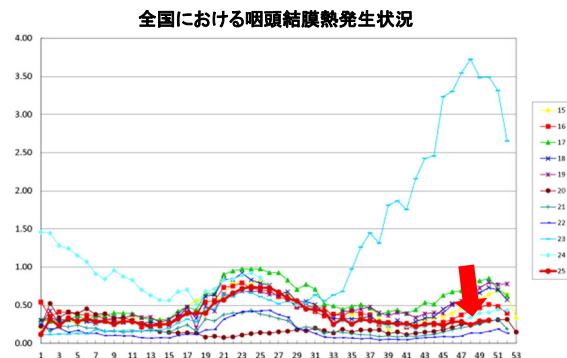


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
高津区	女	4	R7.7.17	咽頭拭い液	ヒトアデノウイルス 54 型
多摩区	女	2	R7.7.17	咽頭拭い液	ライノウイルス、ヒトアデノウイルス 108 型
幸区	女	3	R7.8.20	眼脂	陰性
高津区	男	2	R7.9.2	咽頭拭い液	ヒトアデノウイルス 54 型

【全国及びその他】

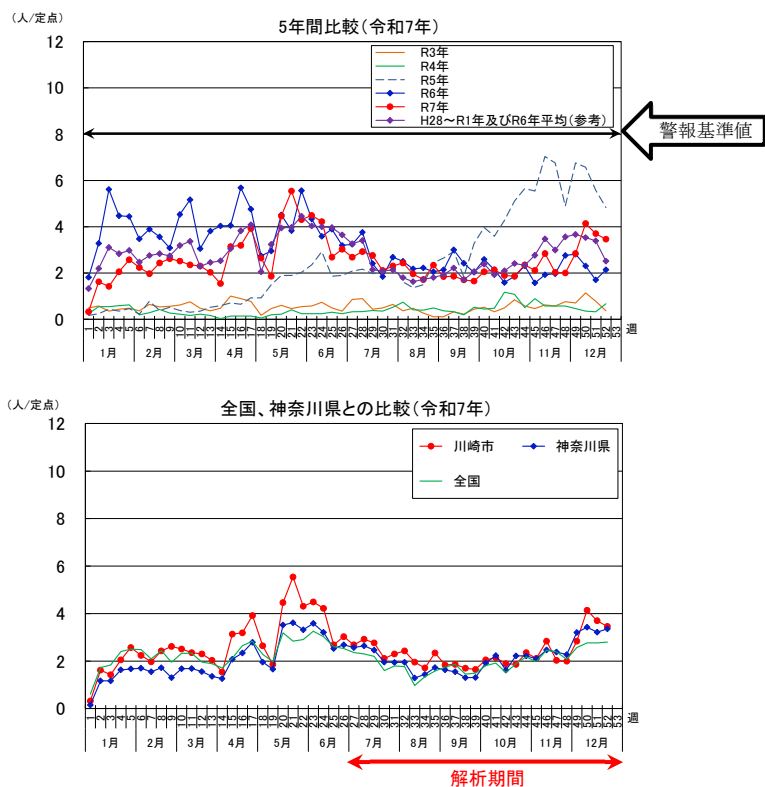
全国的にも例年並みのレベルで推移しました。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は定点当たり 2.38 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.95 倍で、例年並みのレベルで推移しました。今期は、第 50 週に高津区で流行発生警報基準値 (8) を超えました。

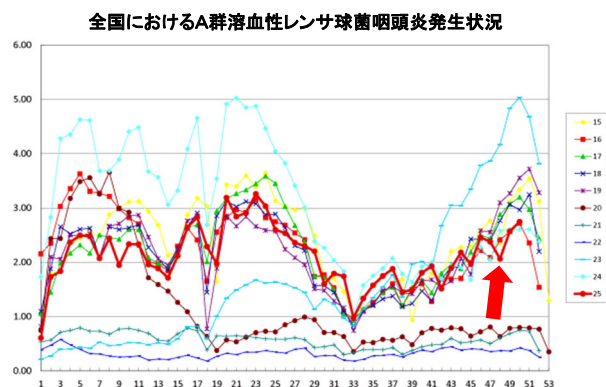


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
宮前区	男	6	R7.6.30	鼻咽頭拭い液	不検出
中原区	男	12	R7.7.8	咽頭拭い液	不検出
幸区	男	10	R7.7.29	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 TB3264
多摩区	女	8	R7.8.1	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 T4
幸区	男	10	R7.8.19	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 T 型別不能
宮前区	男	8	R7.9.1	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 TB3264
中原区	男	6	R7.10.6	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 T4
高津区	女	8	R7.10.14	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 T 型別不能
中原区	男	1	R7.11.12	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 T12
幸区	女	5	R7.12.2	咽頭拭い液	不検出

【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

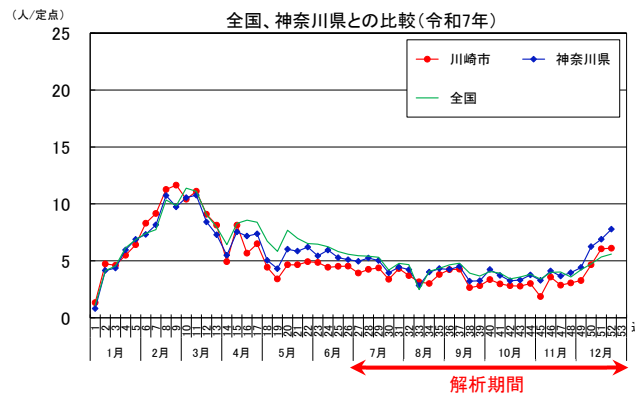
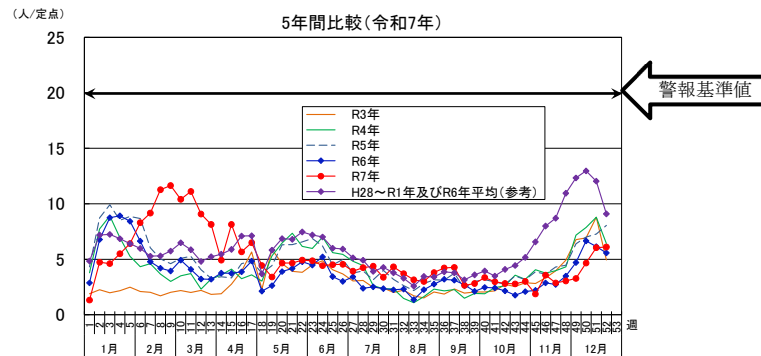


感染性胃腸炎(警報基準値:定点当たり 20 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 3.63 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.62 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (20) を超えた週はありませんでした。

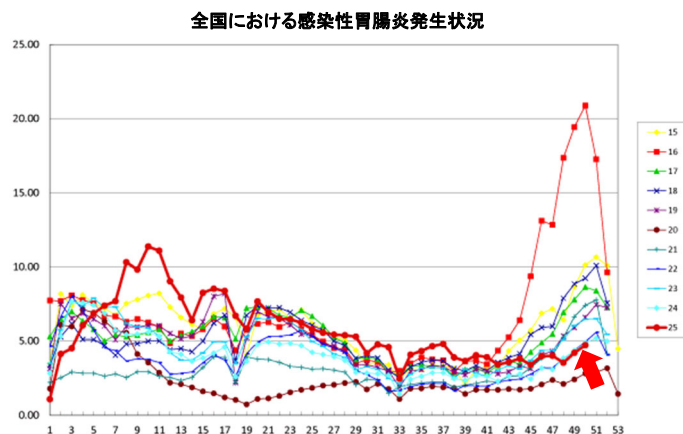


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果(ウイルス)	検査結果(細菌)
高津区	男	4	R7.8.4	便(腸内容物)	陰性	陰性
高津区	女	12	R7.10.23	便	ライノウイルス	陰性
幸区	男	5	R7.12.15	直腸拭い液	ノロウイルス GⅡ. 4	陰性

【全国及びその他】

全国的には例年並みのレベルで推移しました。

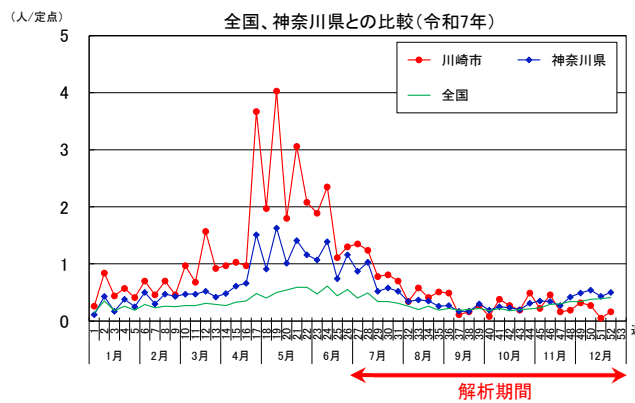
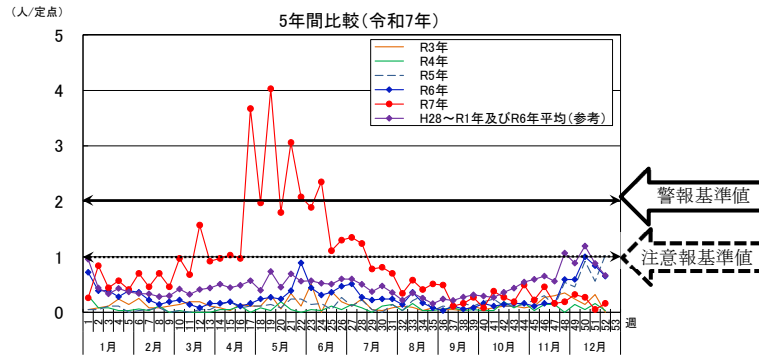


水痘(警報基準値:定点当たり2人、注意報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.42 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.85 倍で、例年並みのレベルで推移しました。

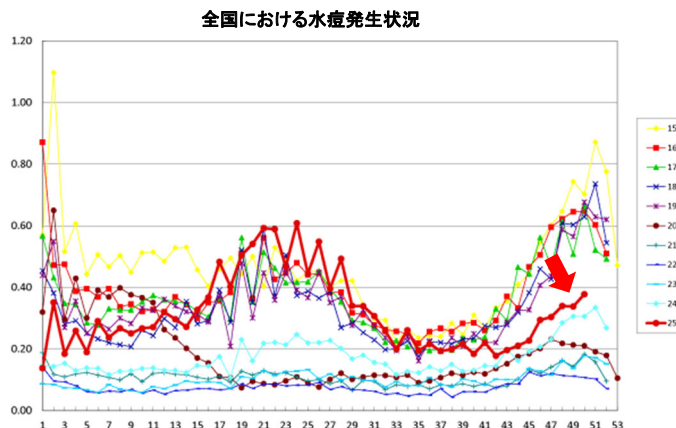
今期は、第 27 週に高津区及び麻生区で、第 28 週に多摩区で、第 36 週に川崎区で流行発生警報基準値 (2) を超えました。また、第 27 週に幸区で、第 28 週に高津区及び宮前区で、第 29 週に宮前区及び麻生区で、第 30 週に高津区で、宮前区及び多摩区で、第 31 週に多摩区及び麻生区で、第 49 週に川崎区で流行発生注意報基準値 (1) を超えました。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

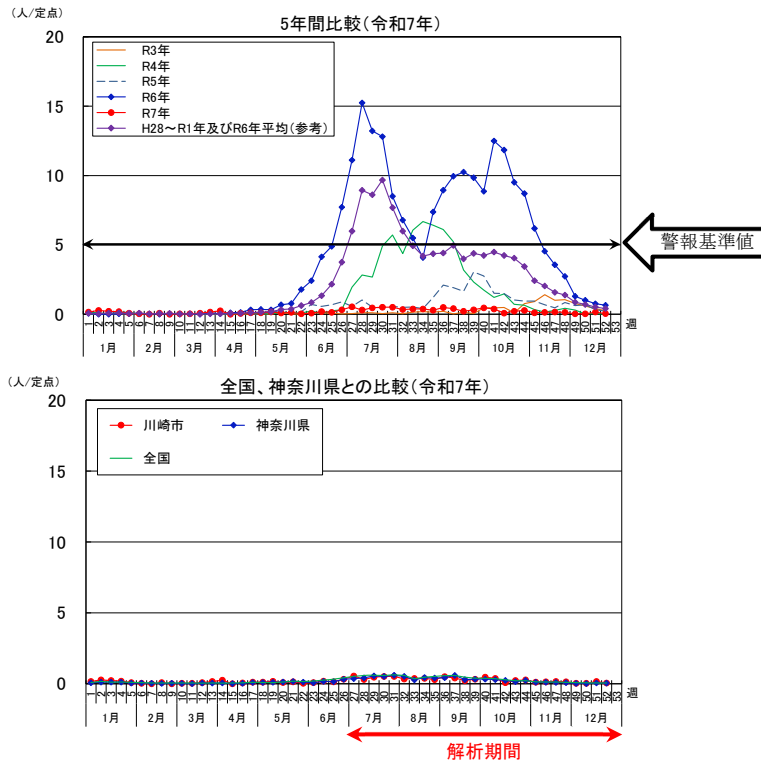


手足口病(警報基準値:定点当たり5人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.28 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.07 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (5) を超えた週はありませんでした。

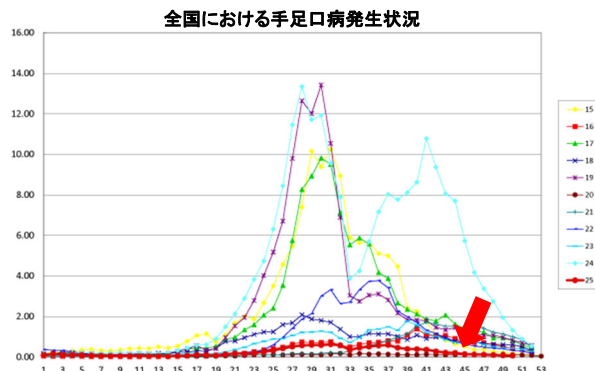


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取	検査材料	検査結果
多摩区	女	0(11 か月)	R7.7.10	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6 型、ヒトパレコウイルス 5 型
高津区	男	4	R7.7.17	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス 2 型、ヒトアデノウイルス 54
高津区	男	0(3 か月)	R7.9.30	咽頭拭い液	陰性

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

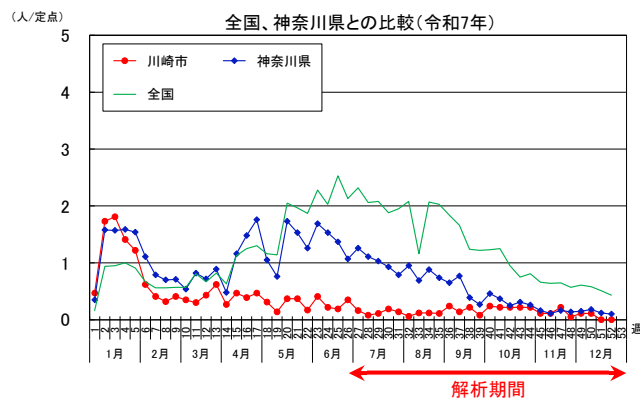
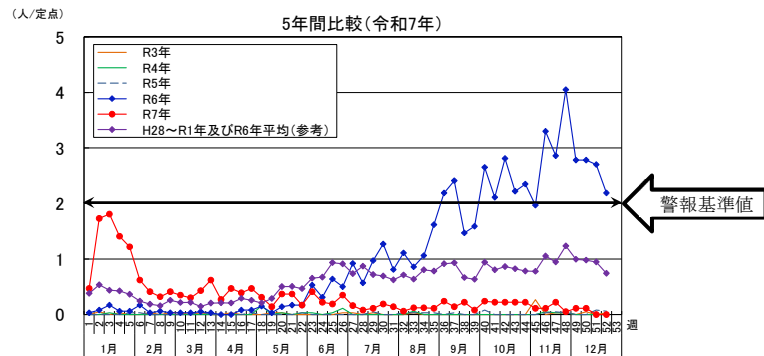


伝染性紅斑(警報基準値:定点当たり2人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.14 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.17 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (2) を超えた週はありませんでした。

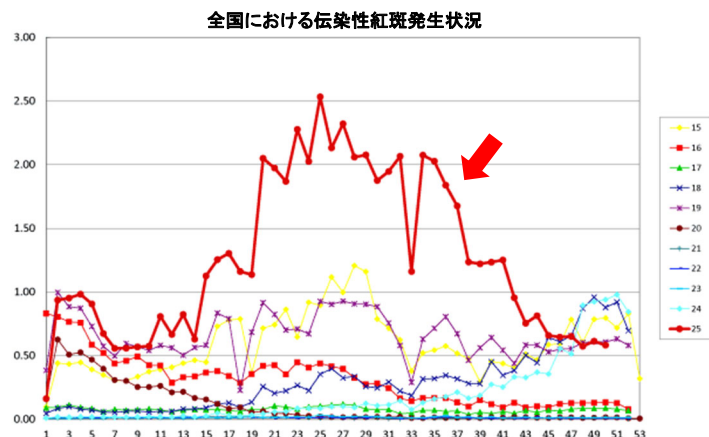


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
高津区	男	2	R7.7.1	咽頭拭い液	陰性

【全国及びその他】

全国的には例年よりかなり高いレベルで推移しました。

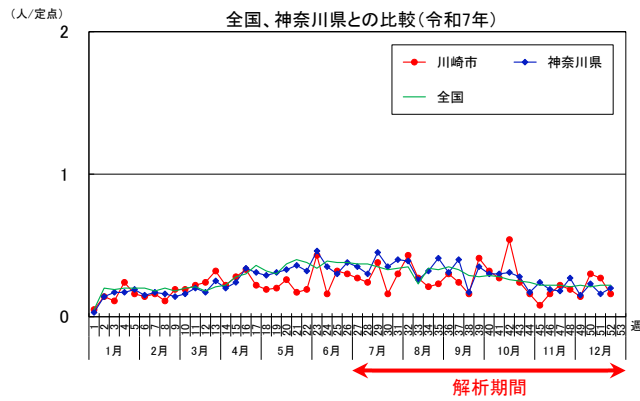
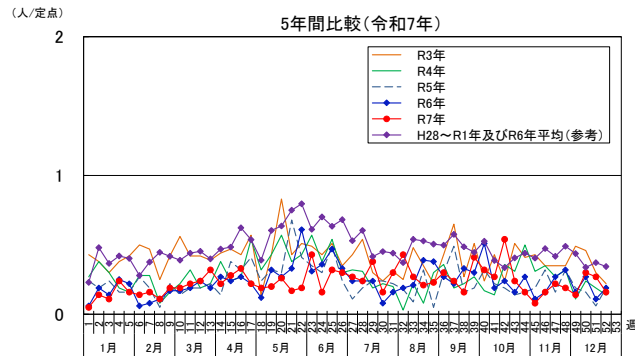


突発性発しん

【川崎市】

今期は定点当たり 0.26 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.58 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

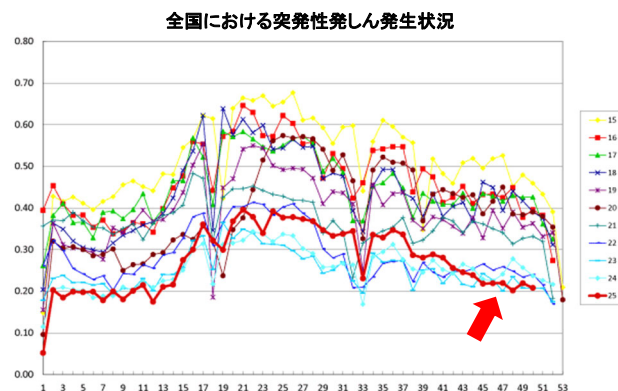
また、年齢階級別では 1 歳以下が 73.0%を占めていました。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的には例年より低いレベルで推移しました。

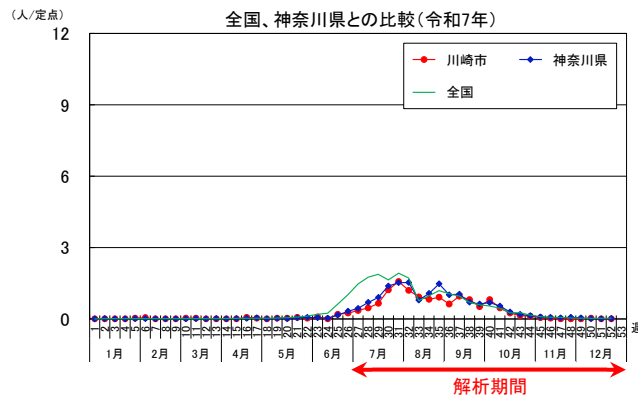
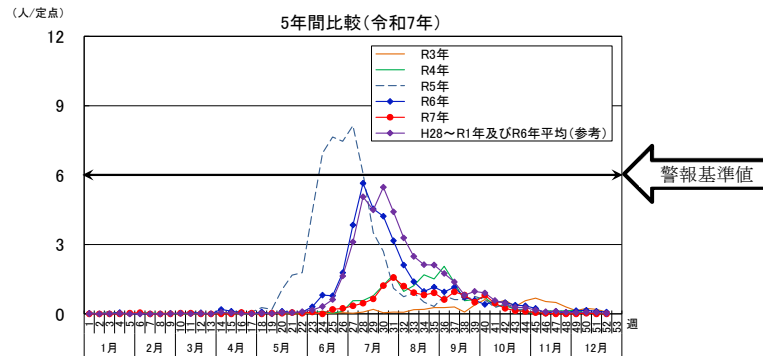


ヘルパンギーナ(警報基準値: 定点当たり 6 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.49 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.32 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (6) を超えた週はありませんでした。

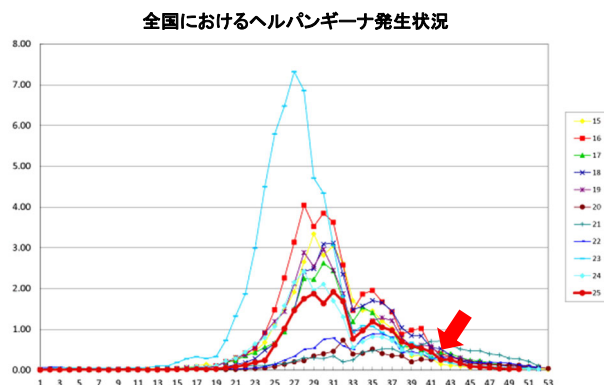


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
多摩区	男	2	R7.8.4	咽頭拭い液	陰性
多摩区	男	0(11 か月)	R7.8.26	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A4 型

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。

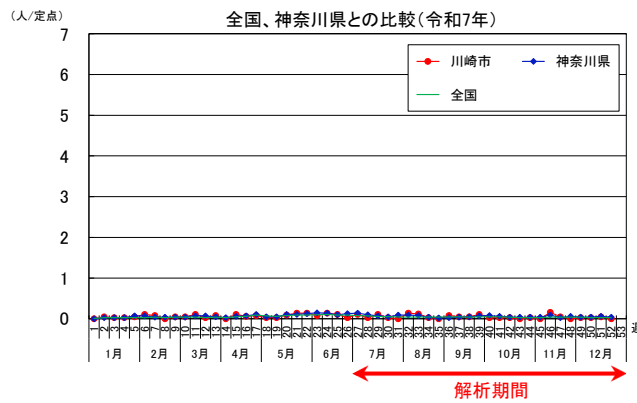
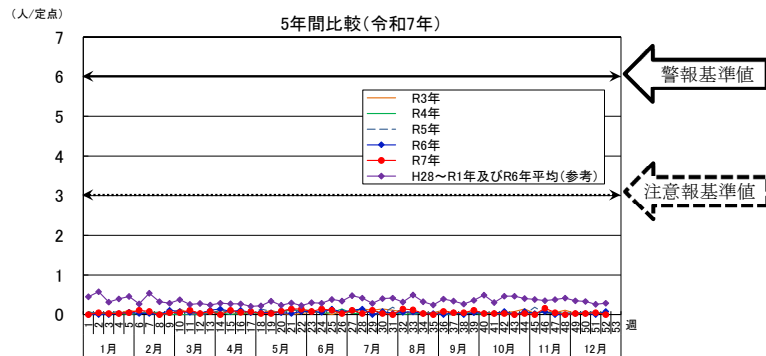


流行性耳下腺炎(警報基準値:定点当たり6人、注意報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.05 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.14 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

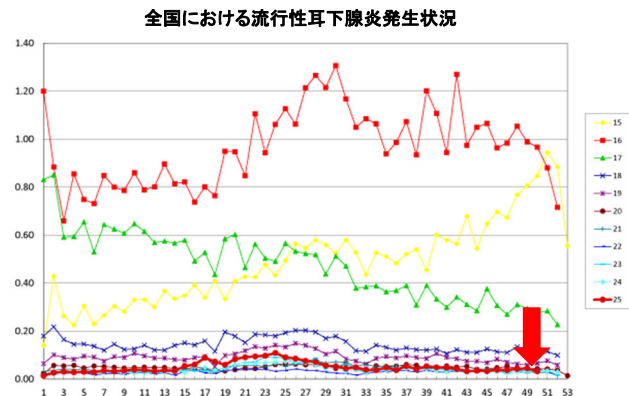
今期、流行発生警報基準値 (6) を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。



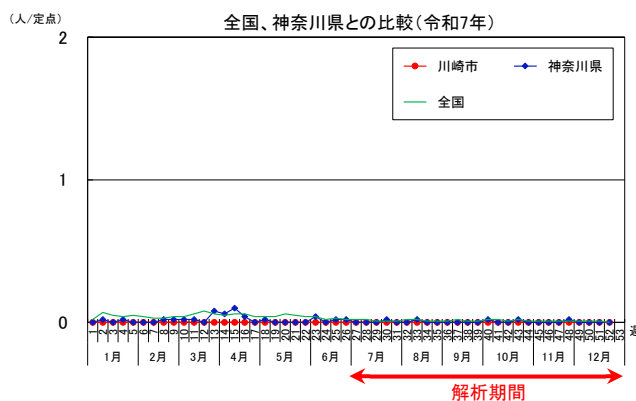
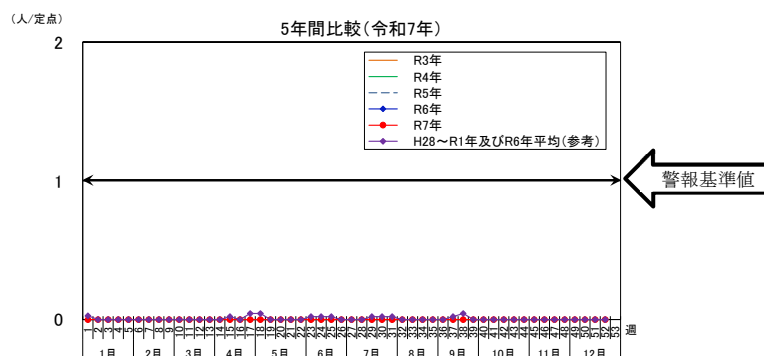
<眼科定点対象疾患>

※令和2年～令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成28年から令和元年及び令和6年の平均を過去5年平均とし、比較を行った。

急性出血性結膜炎(警報基準値:定点当たり1人)

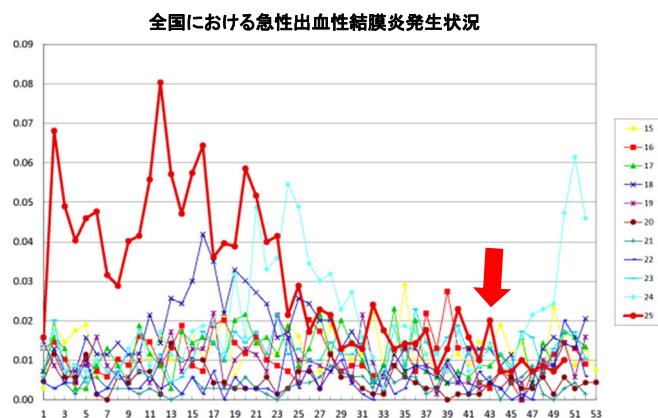
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的には例年並みのレベルで推移しました。

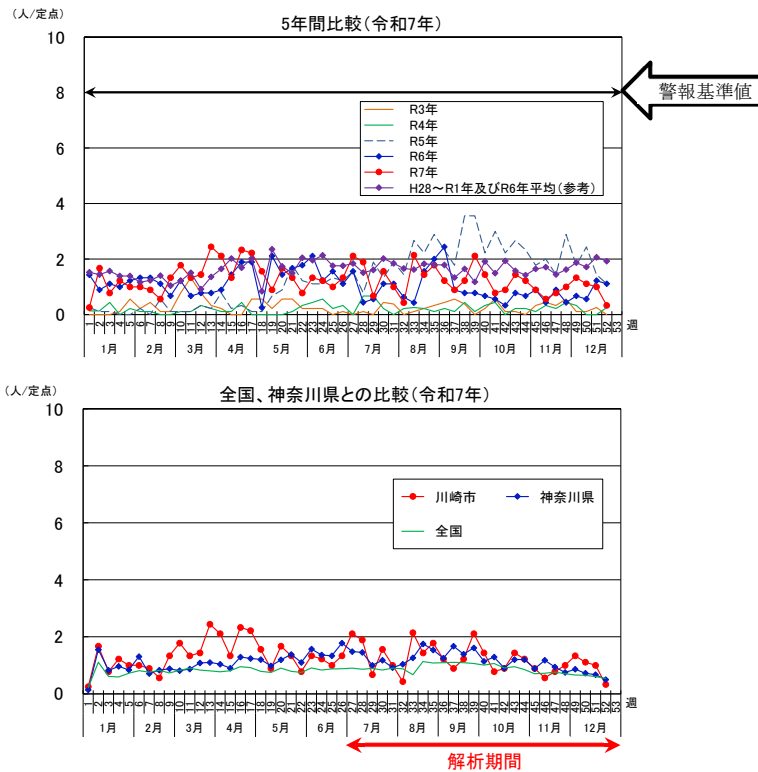


流行性角結膜炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は定点当たり 1.20 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.71 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (8) を超えた週はありませんでした。

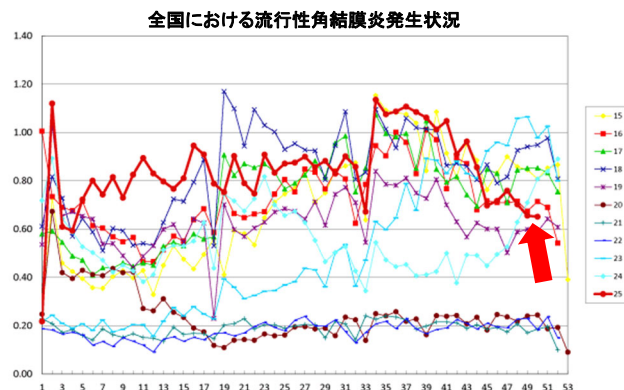


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	女	23	R7.7.1	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	男	36	R7.7.11	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	女	37	R7.7.11	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	男	28	R7.8.1	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	女	42	R7.8.24	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	男	42	R7.9.23	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	女	35	R7.9.23	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	男	14	R7.9.28	眼脂	ヒトアデノウイルス 64 型
川崎区	男	44	R7.10.14	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	男	25	R7.11.15	眼脂	ヒトアデノウイルス 37 型
川崎区	男	27	R7.12.4	眼脂	ヒトアデノウイルス 37 型

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



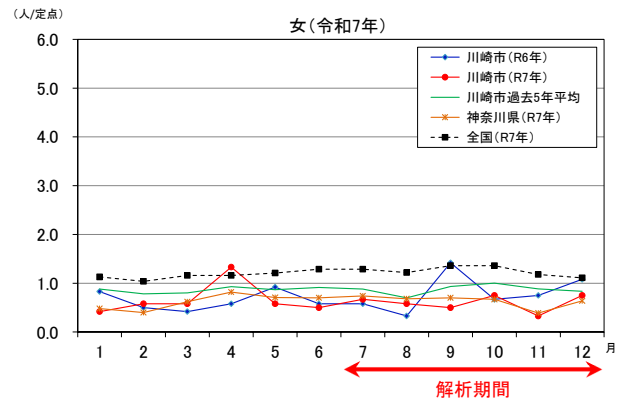
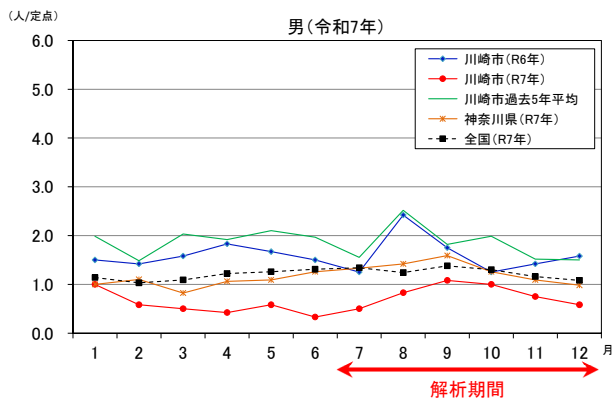
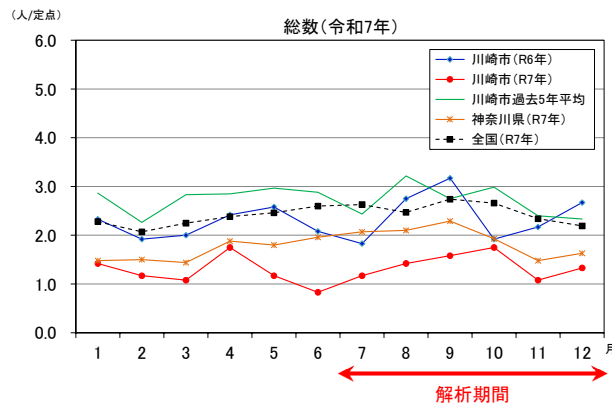
<性感染症定点対象疾患>

※新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年から令和5年においても、報告数に変化がみられなかったため、過去5年平均と比較を行った。

性器クラミジア感染症

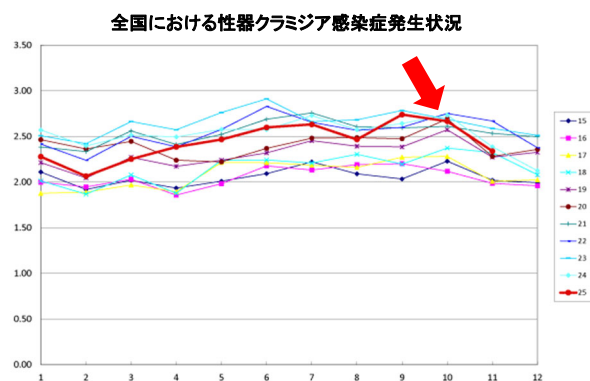
【川崎市】

今期は定点当たり1.39人の報告があり、過去5年平均の0.52倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。男性は9月及び10月、女性は7月、10月及び12月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

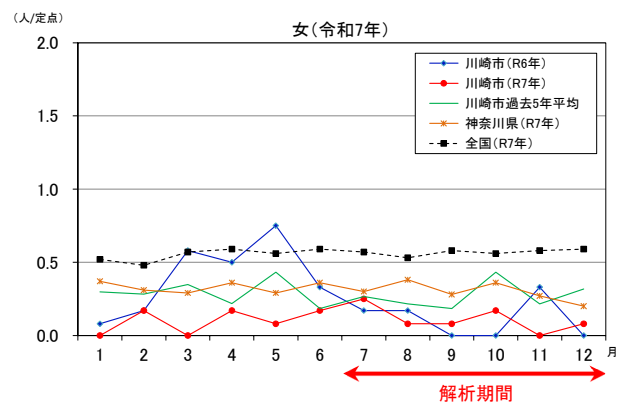
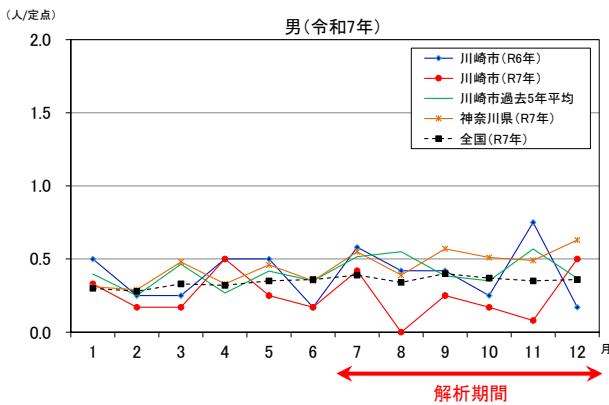
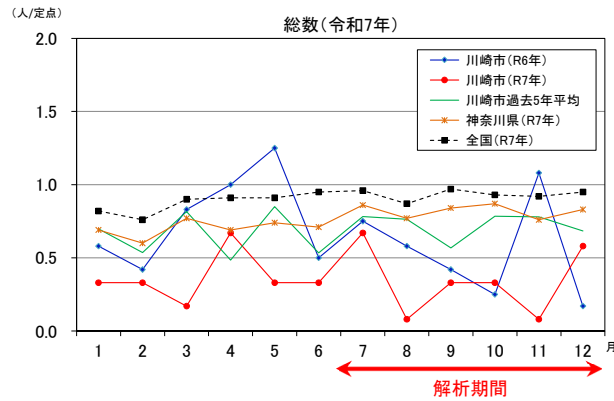
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



性器ヘルペスウイルス感染症

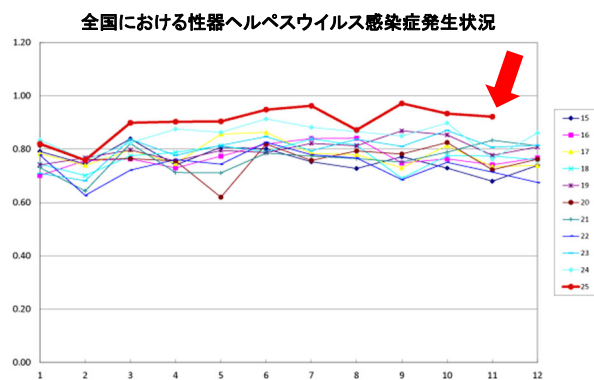
【川崎市】

今期は定点当たり 0.35 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.48 倍で、例年より低いレベルで推移しました。男性は 7 月、9 月及び 12 月、女性は 7 月及び 10 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

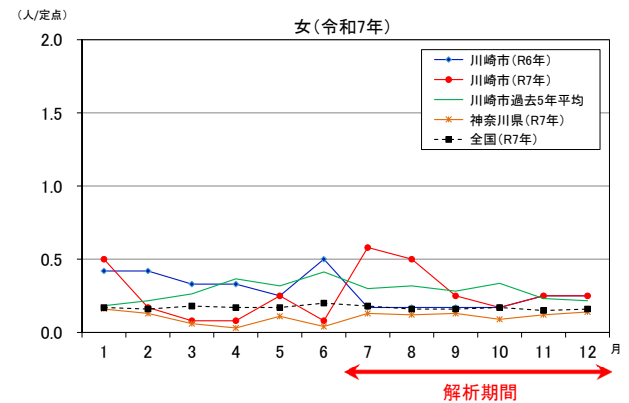
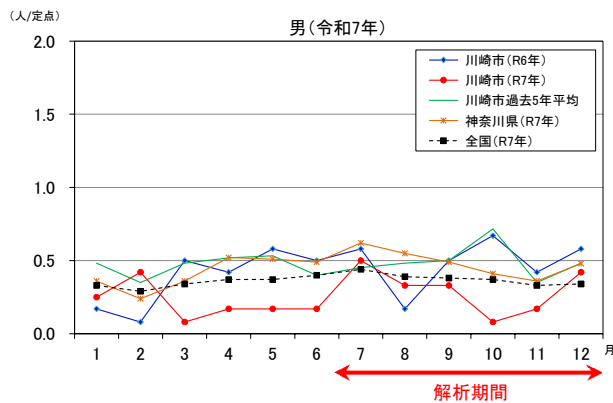
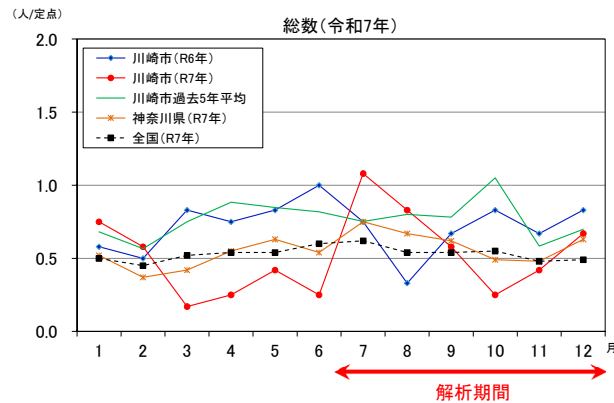
全国的には例年より高いレベルで推移しました。



尖圭コンジローマ

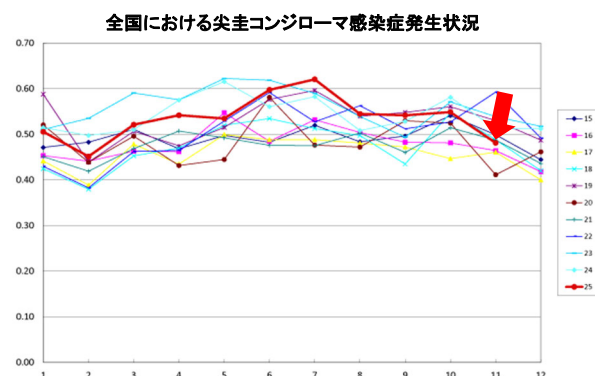
【川崎市】

今期は定点当たり 0.64 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.82 倍で、例年並みのレベルで推移しました。男性は 7 月及び 12 月、女性は 7 月及び 8 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

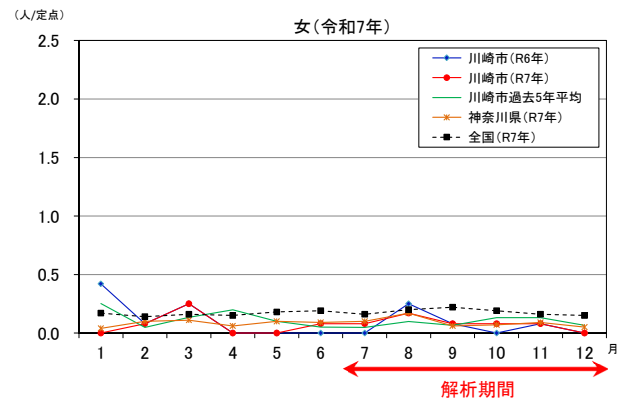
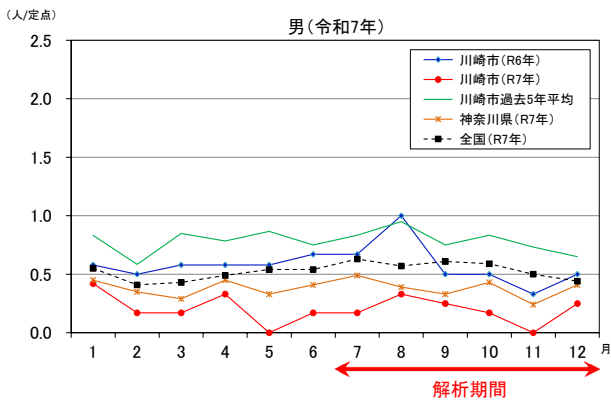
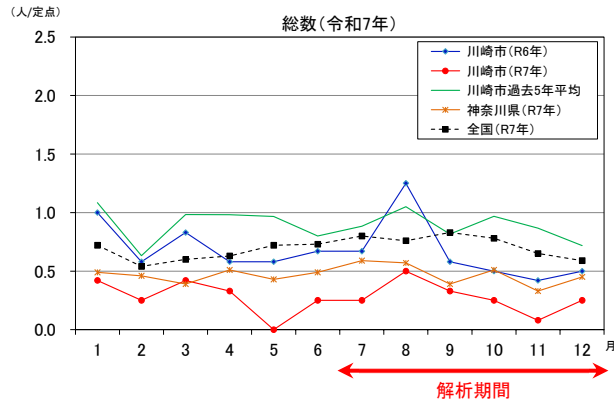
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



淋菌感染症

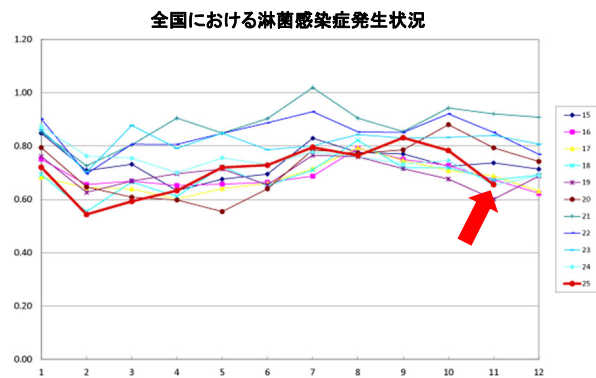
【川崎市】

今期は定点当たり 0.28 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.32 倍で、例年より低いレベルで推移しました。男性は 8 月及び 12 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

全国的には例年並みのレベルで推移しました。



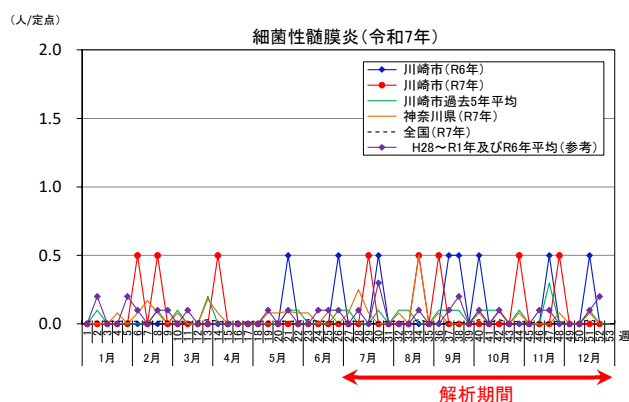
< 基幹定点対象疾患（週報） >

※令和2年～令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成28年から令和元年及び令和6年の平均を過去5年平均とし、比較を行った。

細菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は定点当たり 0.10 人の報告があり、過去5年平均の 1.67 倍で、例年より高いレベルで推移しました。令和7年第29週、第34週、第36週、第44週及び第48週に各1件の報告がありました。

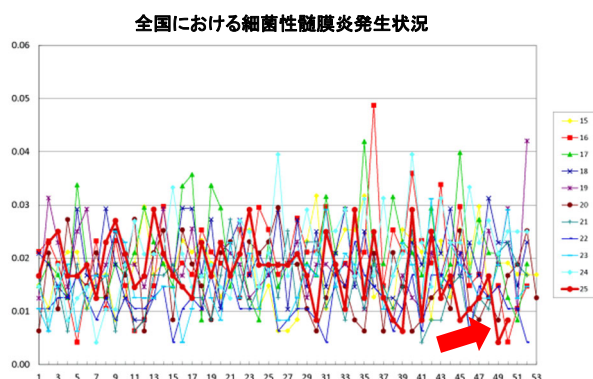


なお、検出された病原菌は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	届出週	検査材料	検査結果
川崎区	男	64	第29週	髄液	<i>Staphylococcus epidermidis</i>
川崎区	男	82	第34週	髄液	Other diarrheagenic <i>Escherichia coli</i>
川崎区	男	48	第36週	髄液	Other bacteria
宮前区	女	78	第44週	髄液	<i>Streptococcus pyogenes</i>
川崎区	女	80	第48週	血液	<i>Listeria monocytogenes</i>

【全国及びその他】

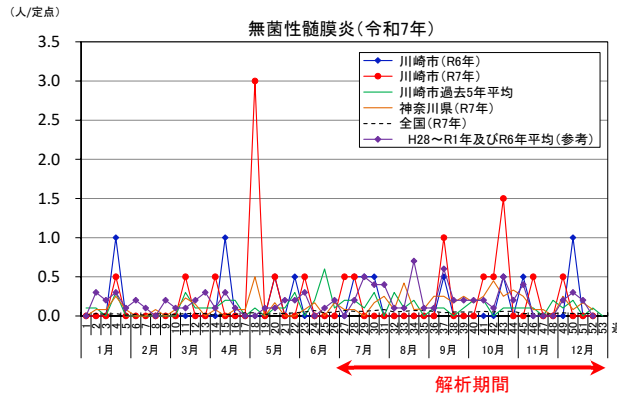
全国的には例年並みのレベルで推移しました。



無菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は定点当たり 0.21 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.93 倍で、例年並みのレベルで推移しました。



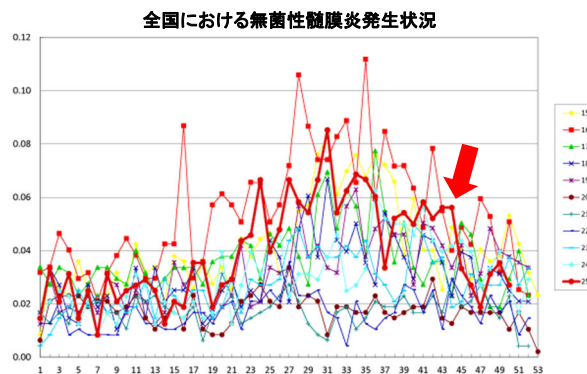
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	女	87	R7.9.10	髄液	陰性
川崎区	男	52	R7.9.30	髄液	検査中※
川崎区	女	70	R7.10.6	髄液	単純ヘルペスウイルス 2 型
川崎区	男	30	R7.11.12	髄液	陰性
川崎区	男	24	R7.12.2	髄液	陰性

※搬入日: 令和 7 年 12 月 19 日

【全国及びその他】

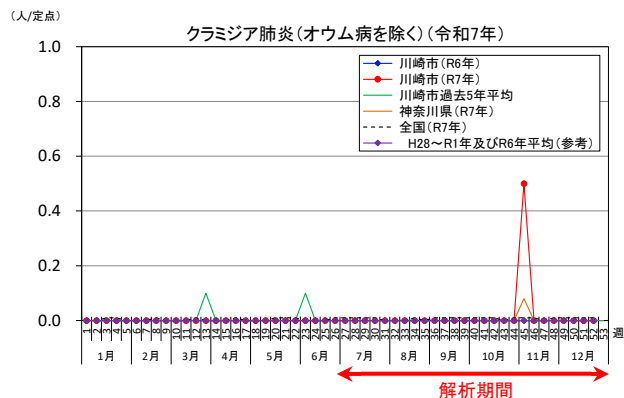
全国的にも例年並みのレベルで推移しました。



クラミジア肺炎(オウム病を除く)

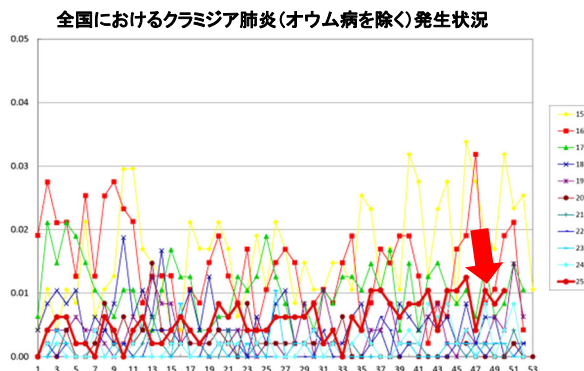
【川崎市】

今期は定点当たり 0.02 人の報告がありました。第 45 週に令和 4 年第 13 週以来 3 年ぶりに 1 件の報告がありました。



【全国及びその他】

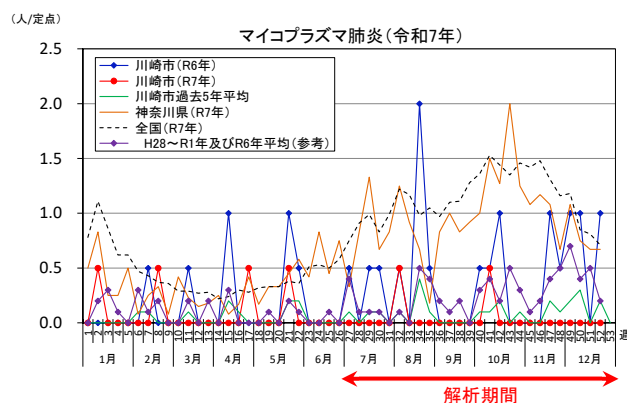
全国的には例年並みのレベルで推移しました。



マイコプラズマ肺炎

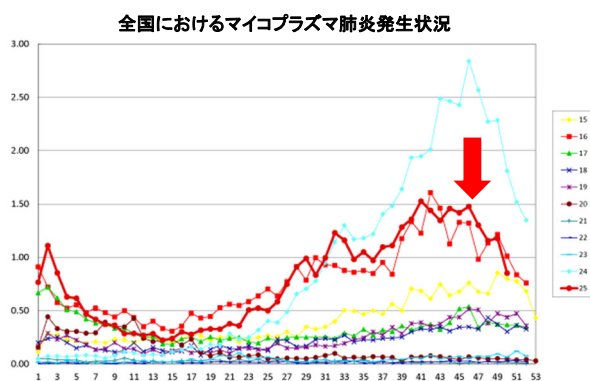
【川崎市】

今期は定点当たり 0.04 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.15 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

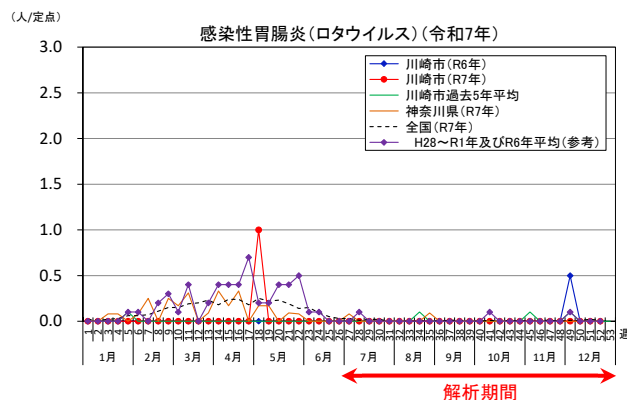
全国的には例年より高いレベルで推移しました。



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

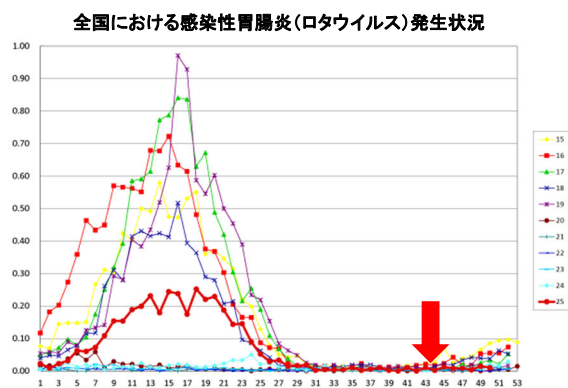
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



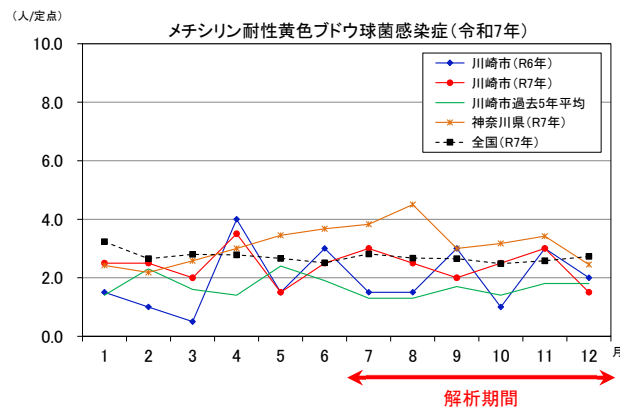
<基幹定点対象疾患（月報）>

※新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年から令和5年においても、報告数に変化がみられなかったため、過去5年平均と比較を行った。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

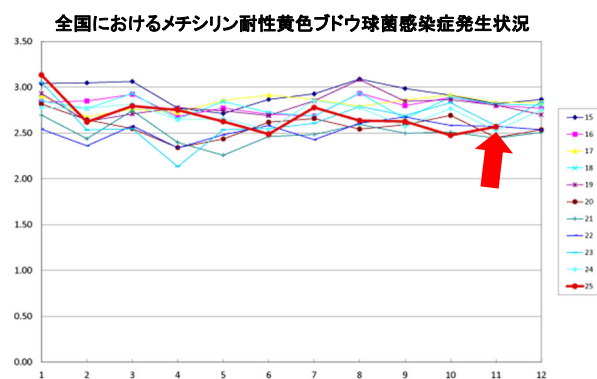
【川崎市】

今期は定点当たり 2.42 人の報告があり、過去 5 年平均の 1.56 倍で、例年より高いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

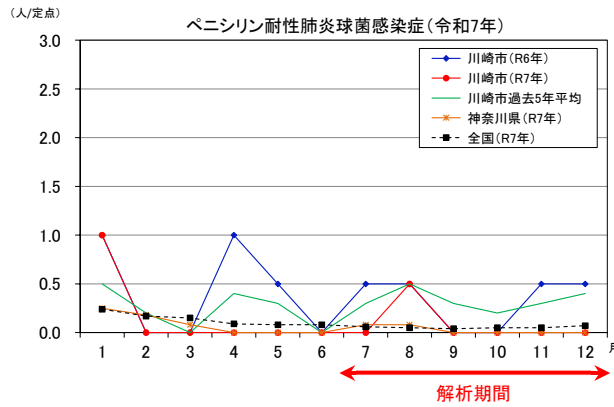
全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

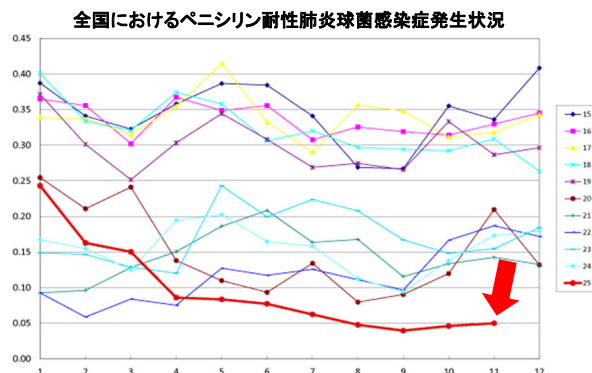
【川崎市】

今期は定点当たり 0.08 人の報告があり、過去 5 年平均の 0.24 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。8 月に 1 件の報告がありました。



【全国及びその他】

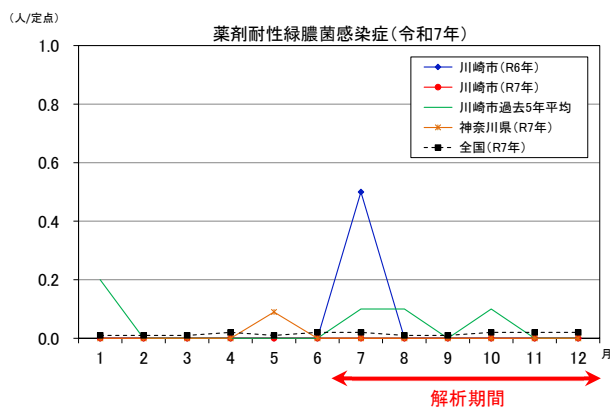
全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。



薬剤耐性緑膿菌感染症

【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

